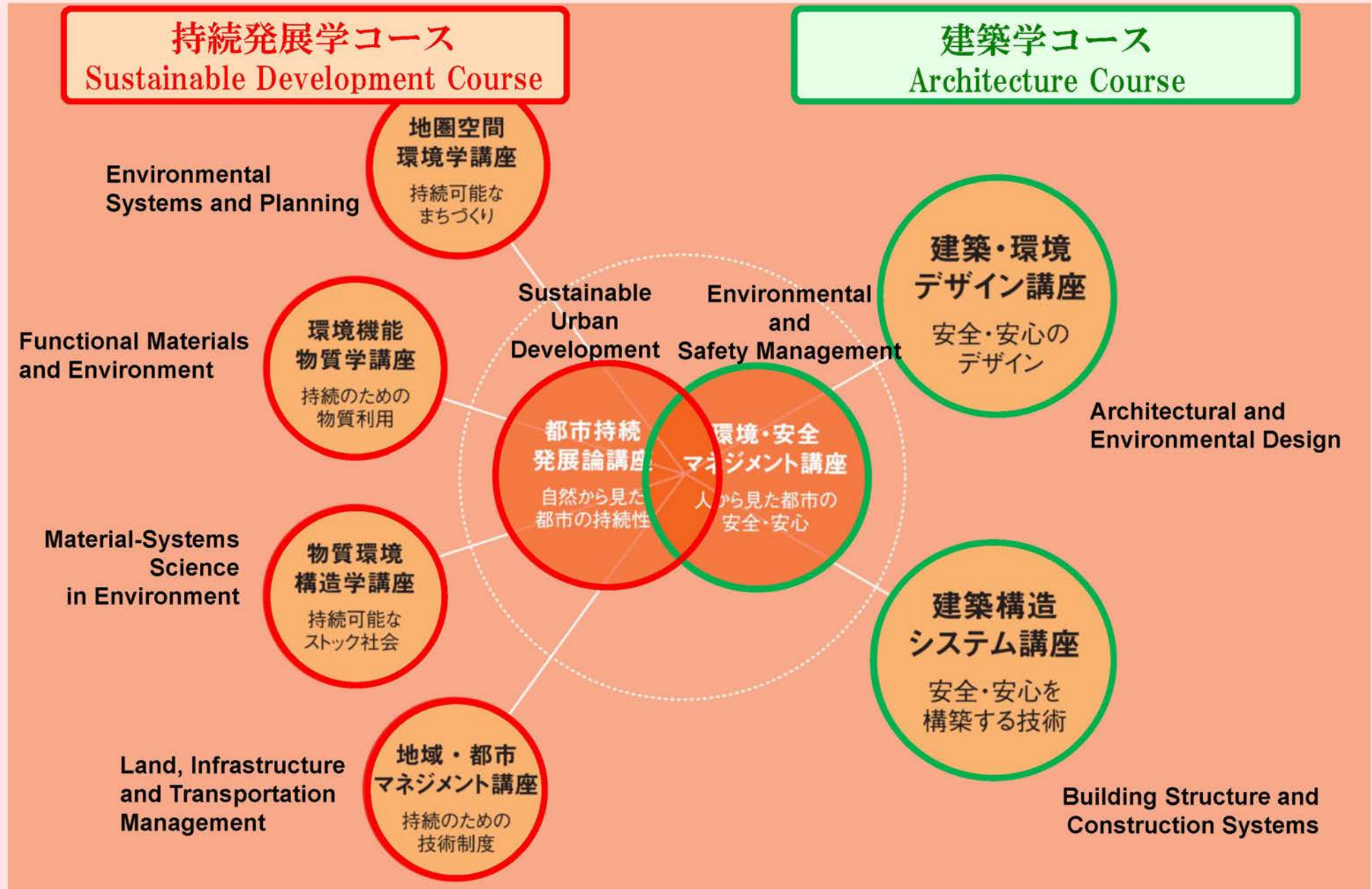


都市環境学専攻



Department of Environmental Engineering and Architecture



持続的な国土・まちづくりのための道路交通

都市環境学専攻・持続発展学系 都市持続発展論講座
Prof. Dr.-Eng. Hideki NAKAMURA

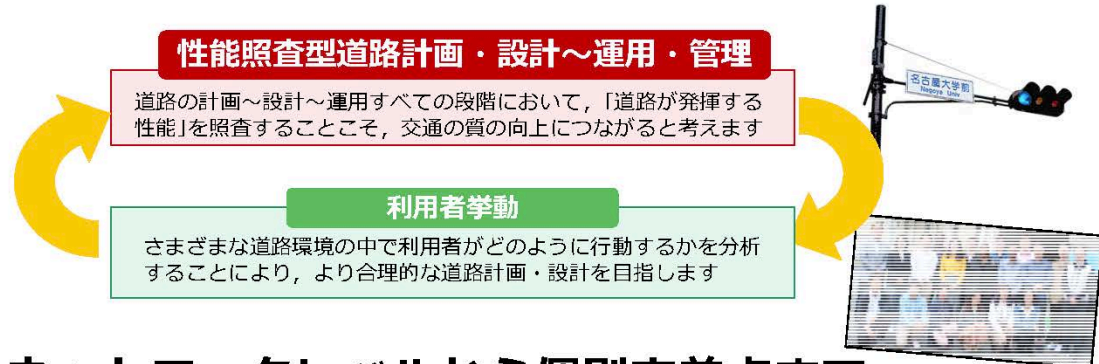
教授 中村 英樹
Email: nakamura(at)genv.nagoya-u.ac.jp



日本の交通をより安全で快適にするために...

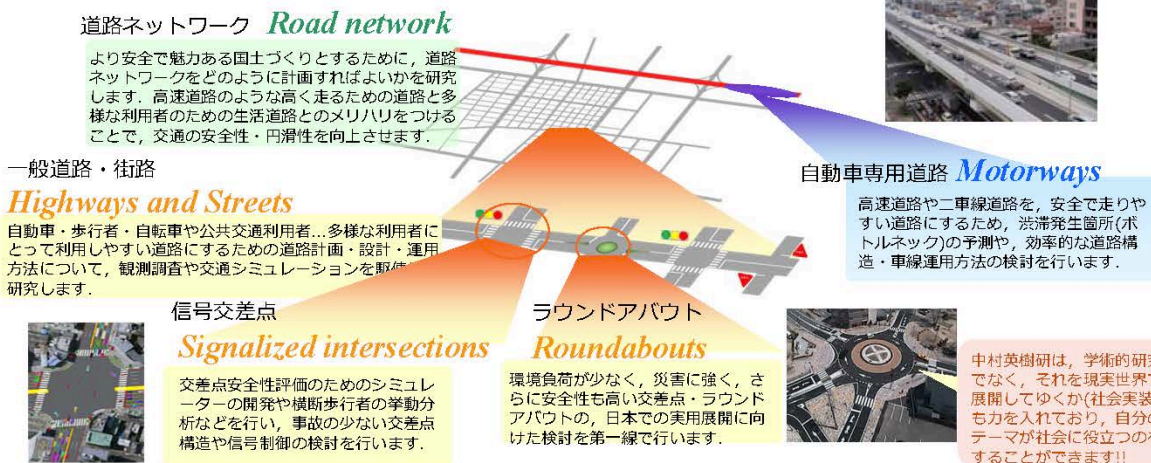
<http://www.genv.nagoya-u.ac.jp/ge1/nakamura/index.html>

多大な投資をして交通インフラを拡大する時代は終わりを告げました。これからは、その機能を最大限に発揮させるための改良・更新をしてゆくことが重要です。このような考えのもと、中村英樹研究室は、社会的ニーズに対応し、道路の本質的な機能やそれを満足すべき性能を追求した合理的な道路設計・運用手法について研究を行う日本有数の研究室です。



ネットワークレベルから個別交差点まで ...スケールと機能に応じた「性能」の向上

中村研では、国土全体を広域に見るネットワークレベルから個別交差点の安全性まで、様々な視点で交通に関する課題解決に取り組みます。



最近の主な研究テーマ

- 性能照査型道路計画・設計論
- 交通容量とサービス水準に関する研究
- 平面交差点の計画設計と交通運用
- ラウンドアバウトの計画設計と利用者挙動に関する研究
- 信号制御手法に関する研究
- 自動運転に対応した道路構造と交通制御に関する研究
- 交通事故分析と交通安全対策
- 街路構造の機能設計に関する研究
- 動的交通運用手法に関する研究
- 安全性解析交通流シミュレーションモデル

研究室での生活

ON/OFFのメリハリを大切に全力で取り組めば、可能性は無限大∞!!

ゼミ / 輪講 毎週実施

ゼミでは卒修論をはじめとした研究の進捗状況を報告し全員で議論します。大学院向けの授業である輪講では、研究に関連した海外の文献をレビューし、英語でプレゼン・議論します。



インターンシップ 通常8-9月

希望を考慮して、国内外の企業や研究所・自治体などで実施できます。進路決定や就職後にも役立つ経験が得られるはず...!!



野外観測調査 / 走行調査 随時実施

データはみんなで協力して楽しくGET!!

その他にも、お楽しみイベント多数!!
例えば...

学会発表 例えば6, 11月

海外を含む多数の学会で研究成果を発表するチャンスがあります。



花見 4月初旬 / 飲み会 随時

夏合宿 8or9月 昨年は琵琶湖!!

国際交流 毎日 留学生と過ごす





人にも環境にもやさしい「持続可能な」国土・都市の実現を目指して

環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 臨床環境学コンサルティングファーム部門
地域戦略研究室 / Education and Research Center for Sustainable Co-Development (SusCoDe)

教授 加藤博和 / Professor Hirokazu KATO

都市環境学専攻、工学部環境土木・建築学科環境土木工学プログラム、減災連携研究センター兼任
<http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/kato/Jkato.htm>



「環境にやさしい交通や都市かどうか、どうすれば分かりますか？」

そこで... 「ライフサイクルアセスメント(LCA)」という手法を用いて、低炭索性や省エネルギー・省資源性など、都市・地域や交通システムの「環境へのやさしさ」評価手法を開発し、普及にも取り組んできました。この分野ではオンリーワンです。

「環境にやさしいと言われても、それだけではやる気にならないですね？」

そこで... 都市・地域の魅力を生活の質(QOL)指標で評価するとともに、都市の維持にかかる費用も同時に計算する方法を開発しました。また、巨大自然災害発生と対策も考慮し、LCA結果と合わせて、都市・交通システムの方向性をSDGs全体の観点から検討し、その実現のための政策・制度のあり方を提案したりしてきました。

重点テーマ1:
脱炭素・創蓄省エネルギーを実現する都市・地域構造への移行策を明らかにする

「言っていることはもっともでも、世の中で実現しないと意味ないですね？」

そこで... 土木工学出身者として、名古屋市をはじめ様々な現場で、人にも環境にもやさしく災害にも強い都市・地域実現を目指すプロジェクトに参画し、現場でありがたがっていただける「臨床医」を実践しています。それができる、俯瞰力と現場力を持ち合わせた人を育てる「臨床環境学」の創成に携わり、ORT(On-site Research Training)プログラムの確立やコンサルティングファームの活動も進めています。国や自治体の委員として実際の政策を動かしています。

重点テーマ2:
地域公共交通計画づくりに関わる(現地調査やデータ集計・解析からニーズをさぐる)

“Think globally! Act locally!”

地球の将来を見つめながら、現場で着実に貢献できる

「仕事人」づくりに取り組んでいます！

さあ、私と一緒に勉強し活動しませんか！

加藤博和

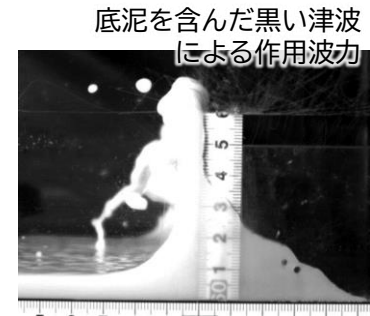
検索



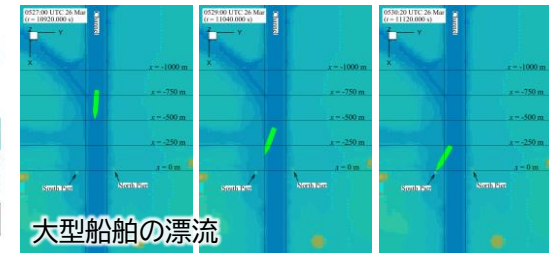
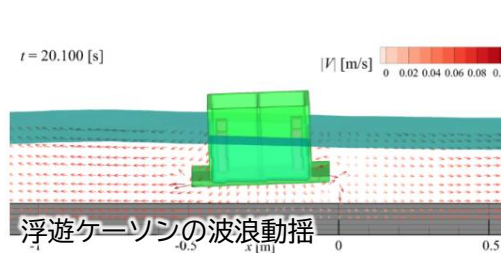
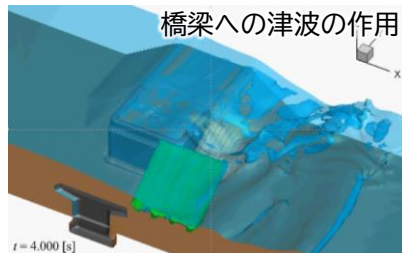
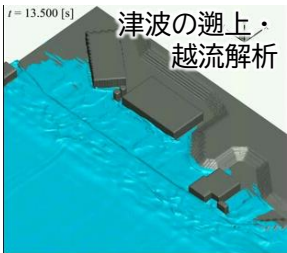


海岸保全施設が整備されている現在でも、津波や高波による沿岸災害が発生しています。また、再生可能エネルギーとしての波エネルギーの活用も注目を集めています。気候変動に適応した沿岸域の防災・減災対策に関する研究、持続可能な海岸侵食対策に関する研究、環境負荷の低減に向けた波力発電の開発に関する研究などを水理実験・数値解析・現地観測により行っています。

- 大規模な水理実験施設：三次元高潮津波シミュレーションシステム、片面ガラス張り鋼製造波水槽、コンクリート製幅広造波水槽の3つの造波水槽を活用して研究を行っています。



- 独自開発の3次元流体・構造・地形変化・地盤連成数値計算モデル(FS3M)：海岸工学分野で一般的に使用されている汎用の数値計算モデルでは取り扱うことのできない波・浮体の運動・漂砂による地形変化・地盤の波浪応答の4者間の相互作用が解析可能なモデルFS3Mを使った研究を行っています。



- 現地観測：三重県七里御浜井田海岸にネットワークカメラを設置し、磯浜海岸の常時観測を行っています。



環境学研究科 都市環境学専攻 持続発展学系 (学部:工学部 環境土木建築学科 環境土木工学プログラム)

准教授 岩松 将一 資源利用, 物質変換, 有機合成化学

Associate Professor, Sho-ichi IWAMATSU (D. Eng.)

Dept. of Environmental Engineering and Architecture / Sustainable Development Course, Grad. School of Environmental Studies

Dept. of Civil Engineering and Architecture / Civil and Environmental Engineering Program, School of Engineering

Keywords: Resource Utilization, Chemical Transformation of Materials, Synthetic Organic Chemistry



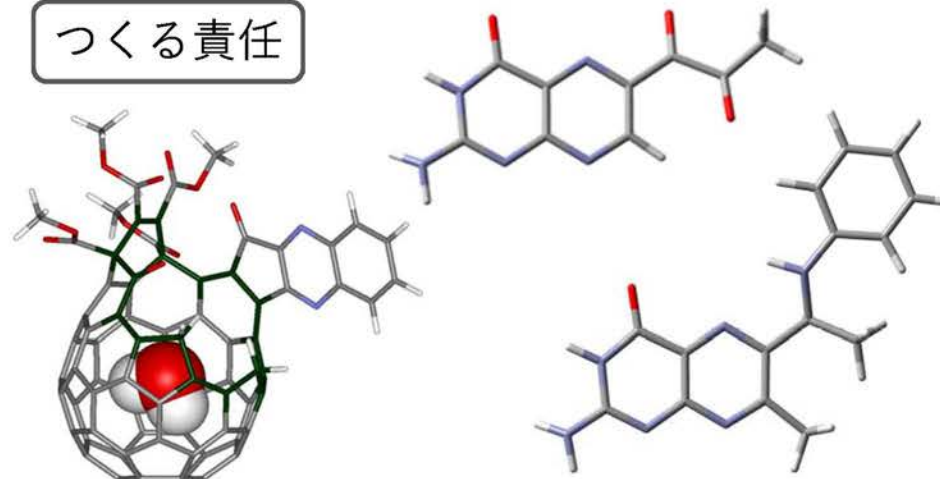
持続可能な都市社会の形成に貢献しうる資源の利用

方法や物質変換技術の開発に取り組んでいます。

We conduct research and education focusing on Resource utilization and Chemical Transformation of Materials for Sustainable Cities and Communities.

- 温室効果ガスの資源利用
Utilization of greenhouse gases as inexpensive feedstocks
- 非化石資源材料の高品位化
Upgrade transformation of non-fossil resource materials
- 可視光エネルギーを利用した物質変換
Utilization of visible light-energy in transformation of materials

つくる責任



つかう責任



11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION

